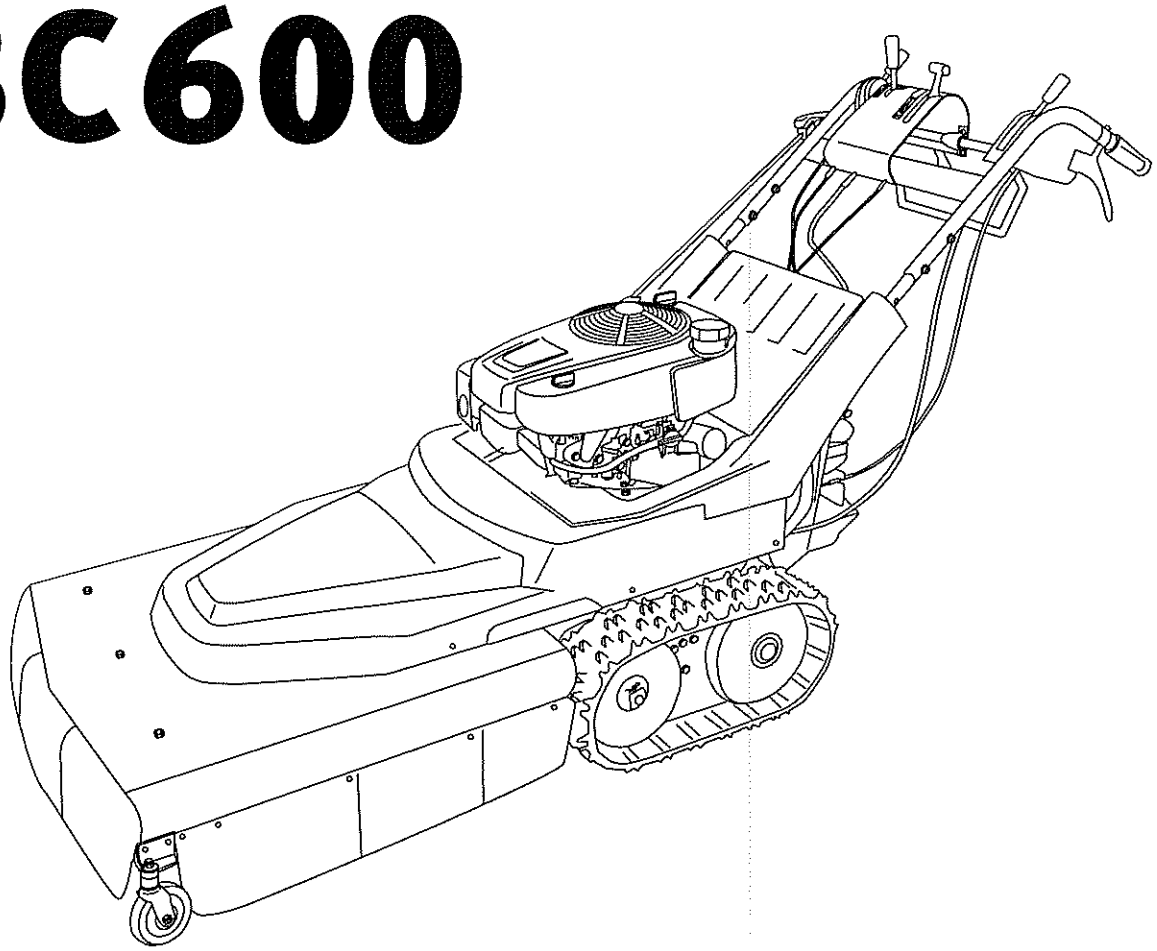
# 取扱説明書

# 雑草刈機

# BC600

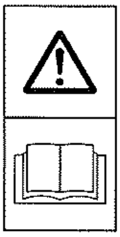


ご使用前に、必ずお読みください

46019-131
11-03

# 1. はじめに（必ずお読みください）

・このたびは弊社の雑草刈機をご購入いただき、ありがとうございます。



・お客様は必ずこの取扱説明書を含むすべての取扱説明書を注意深く読み、内容を理解して使用してください。

・もし内容を理解しないで使用すると、雑草刈機の危険とその回避方法を知らないために、予期せぬ人身事故を起こしたり、雑草刈機やその他の財産に損害を与える恐れがあります。

・本取扱説明書の記載に従わなかった場合、損害の保証は致しかねますのでご了承ください。

・決して子供には本機の取り扱いをさせないでください。

目次


1. はじめに ･････････････････････････････ 1
2. 取扱説明書について ･････････････････････ 1
3. 安全に使用するために ･･･････････････････ 1
4. 各部の名称と機能 ･･･････････････････････ 3
5. 仕様一覧 ･････････････････････････････ 4
6. 付属品一覧・組付要領 ･･･････････････････ 4
7. 運転 ･････････････････････････････････ 5
8. 各部の調節 ･･･････････････････････････ 6
9. 点検・整備 ･･･････････････････････････ 9
10.運搬 ･････････････････････････････････ 10
11.長期の保管 ･･･････････････････････････ 10
12.廃機 ･････････････････････････････････ 10
13.トラブルシューティング ･････････････････ 11
14.上手な作業のしかた ･････････････････････ 12
15.刈刃の点検・交換 ･･･････････････････････ 13
16.刈刃の取り付け・取り外し ･･･････････････ 14
17.刈取部の清掃 ･････････････････････････ 14


# 2. 取扱説明書について

・取扱説明書を紛失、または破損した場合は、販売店にご相談ください。
・仕様変更等により、イラスト、内容が実機と異なる場合があります。
・本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にこの取扱説明書を渡してください。

# 3. 安全に使用するために（必ずお読みください）

この章の内容と各章の警告を厳守し、一般的に危険とされる行動をとってはいけません。

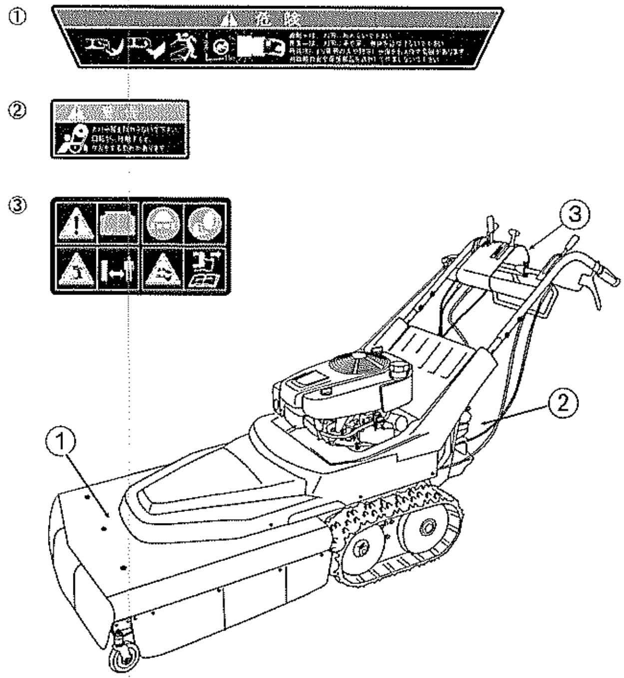
## 3.1 安全に関する表示

この取扱説明書では、特に重要と考えられる取り扱い上の注意事項について次のように表示しています。

| | |
|---|---|
| ⚠ 危険 | その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。 |
| ⚠ 警告 | その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。 |
| ⚠ 注意 | その警告に従わなかった場合、軽傷を負うか装置の故障の可能性のあるものを示しています。 |

## 3.2 警告ラベル

・この雑草刈機には、下図が示すように警告ラベルが貼付されています。
・警告ラベルは常に読める状態を維持して下さい。
・警告ラベルが読めなくなった場合は、新しいラベルを貼ってください。




## 3.3 刈刃について

この雑草刈機には、高速で回転する刈刃が取り付けられています。
刈刃は鋭利で危険な刃物であるため、下記の注意を守らずに作業を行うと非常に危険です。（9.7、14、15章参照）

### ⚠ 危険

・エンジンの起動中は、カバーの下から足や手を入れないでください。
・以下の時はエンジンを停止し、プラグキャップを外してください。
点検・保守／交換／機械のトラブル／その他のトラブル発生（枝の引っかかり等）

## 3.4 ガソリンの取扱い

ガソリン取扱い時の事故防止のため、次のことを守ってください。

### ⚠ 危険

使用燃料

・無鉛ガソリンだけを使用してください。アルコール入りのガソリン、有鉛ガソリンや、汚れたガソリンを使用しないでください。またオイルを混ぜてはいけません。ガソリン以外の燃料を使用した場合、火災事故や故障の原因となります。

補給時の注意

・ガソリンは非常に高い引火性、爆発性を持っているため、タバコやその他の発火する可能性のある物を近づけないでください。火気を使用している近くで給油しないでください。
・エンジン起動中や、エンジンが熱い状態で燃料タンクキャップを開けたり給油を行わないでください。
・燃料タンクキャップを確実に締めてください。ガソリンがこぼれた場合は、ただちに布で拭き取ってください。蒸発するまでいかなる発火源も近づけないでください。
・異物が混入しないように注意してください。
・燃料漏れをしていないか確認してください。
・ガソリンを屋内で給油するときは必ず換気してください。換気の良い場所で行ってください。

貯蔵に関する注意

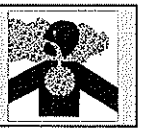
・ガソリン専用の容器（金属製）に入れ、冷暗所に保管してください。
・灯油等と区別して保管してください。
・ガソリンの貯蔵量は、使用する国の法律を守ってください。

## 3.5 一般的な注意事項

### 3.5.1 作業前の注意

⚠ 危険

屋内や換気の悪い場所でエンジンをかけないでください。
有害な一酸化炭素がたまり、ガス中毒を引き起こします。



⚠ 危険

標準で装備されているカバー類，部品は必ず装着した状態で使用してください。

- 部品が確実に組み付けられているか確認してください。刈刃は入念に確認してください。(9.7、14、15章参照)
- 本機は5℃以上40℃以下の環境でご使用ください．外気温がこの範囲を超えるような環境で使用すると，作動不良や故障，事故を起こす可能性があります。
- 無理な姿勢にならないようにハンドルの高さを調整して使用してください。
- 周囲に人や建物，車両等がないことを確認し、作業中は半径15m以内にこれらのものを近づけないでください。
- 作業範囲内に小石や棒切れ等が落ちていないか確認し、あった場合は全て取り除いてください。
- だぶつきの無い長袖、長ズボンを着用してください。
- 裸足やサンダル等を履いて使用しないでください。
- アルコールや薬物を飲んだ後、または風邪など体調の悪いときに使用しないでください。
- 炎天下で長時間の作業をしないでください。

### 3.5.2 作業中の注意

⚠ 危険

- 運転中は刈刃に触れないでください。刃物は鋭く危険です。
- 作業中は刈刃に手や足，身体を近づけないでください。手や足，身体が巻き込まれます。
- 飛散物により周囲の人や物等に損傷をおよぼす危険があります。
  作業範囲内に小石や棒切れ等が落ちていないか確認し、あった場合は全て取り除いてください。
- 安全保護具を取り外して作業しないでください。刈取部の安全保護具とは刈取部に付いているカバー類です。

⚠ 警告

- 子供やペットを作業範囲内に近づけないでください。
- 刈取高さ調整時は必ずエンジンを停止してください。
- 作業中に異常な振動・音・臭いを感じたとき、石などの硬いものに接触したときは、直ちにエンジンを停止し、点火プラグを外して点検を行ってください。
- カバー類を取り外さないでください。回転部に接触すると、手や足，身体を巻き込み、ケガをする恐れがあります。

- 作業者以外は近づけないでください。もし第三者が近づいた場合は、刈刃を停止してください。
- マフラーの排気口を塞がないでください。
- 平坦でない場所の雑草を刈るときは特に注意してください。
  本機が傾いて刈刃が見えたり、草や石を弾き飛ばす恐れがあります。
- 斜面で方向を変えるときは特に注意してください。
- 10°以上の斜面では運転してはいけません。
- 作業は明るい時間帯か、十分な明るさの照明の下で行ってください。
- 雑草が濡れているときは作業しないでください。足を滑らせて転倒する恐れがあります。
- 作業中はハンドルを両手でしっかり持ち、足元に注意して行ってください。
  決して走って作業しないでください。
- エンジンを始動するときは、走行クラッチレバーと刈刃クラッチレバーを共に“切”位置へセットしてください。
- 回転部分には手・足を近づけないでください。
- エンジン起動中は持ち上げないでください。
- 本機から離れるときは必ずエンジンを停止してください。
- 作業場を移動するときなど、雑草刈作業以外のときは必ず刈刃を停止してください。
- 刈刃クラッチレバーと走行クラッチレバーが“停止”，“切”の時、ベルトが確実に止っていることを確認し、少しでも動いている場合は速やかにエンジンを停止し、ベルト押え，ワイヤを調整してください。

### 3.5.3 作業後の注意

作業後は草クズやゴミを取り除き、本機を点検して部品の欠落や異常がないか確認してください。

### 3.5.4 点検・整備時

⚠ 危険

屋内や換気の悪い場所でエンジンをかけないでください。
有害な一酸化炭素がたまり、ガス中毒を引き起こします。

⚠ 警告

- 点検・整備・修理・清掃等を行うときはエンジンを停止し、プラグキャップを外してください。
- 刈刃を研磨するときは保護眼鏡を着用してください。

- 刈刃の点検をするときは皮手袋を着用してください。
- プラグキャップを外すときはやけどをしないよう注意してください。
- エンジン周りの保守は、エンジンが冷えてから行ってください。
- 本機を傾けるときは、燃料コックを閉じ、エンジンのキャブレター側が上になるように右側に倒します。キャブレターが下になると、ガソリンがこぼれ危険です。ガソリンやオイルがこぼれないよう注意してください。こぼれた場合は直ちに布で拭き取ってください。
- やぶれや損傷があれば本機を使用しないでください。部品は交換し、修理してください。絶対に修正しないでください。交換部品は当社指定のものを使用してください。刈刃も当社指定のものを使用してください。
  同等の品質ではない部品は機械に損傷を与え、安全を阻害する恐れがあります。

### 3.5.5 積み降ろし

⚠ 警告

- 平坦な場所を選び、自動車が動き出さないようにエンジンを止め、ギヤをPまたはRに入れてください。
- サイドブレーキを引き、車止めをしてください。
- エンジン回転数を下げて、変速レバーを低速にして、積み下ろししてください。

### 3.5.6 自動車での運搬時

⚠ 危険　エンジンを停止してください。

⚠ 警告

- 荷台からハンドルがはみ出さないよう、本機をロープで固定してください。
- 本機を倒したまま運搬しないでください。
- 燃料タンクとキャブレータの燃料を抜いてください。
- 自動車の運転は急発進・急加速・急停止を避けてください。

### 3.5.7 その他

⚠ 危険

- 子供が触れないように保管してください。
- この雑草刈機を改造しないでください。
- 草刈以外の異なる用途に使用しないでください。

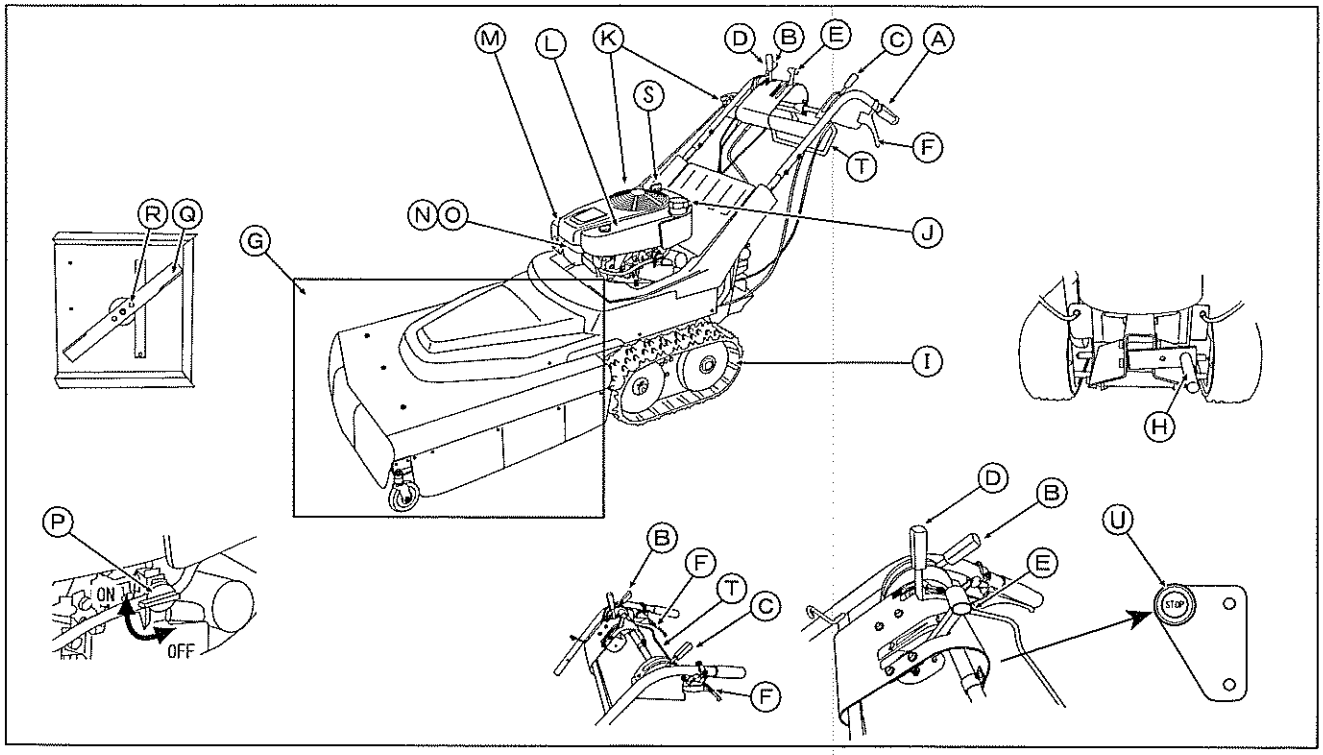
- エンジン部分は熱くなるので、刈草など燃えやすいものを堆積させると火災の原因になります。
- 刈取高さ調整はエンジンを停止してから行ってください。
- 本機から離れるときや点検作業時は、平らな場所に本機を置いてください。

# 4. 各部の名称と機能

## 4.1 使用目的

この雑草刈機は、雑草を刈ることを目的に設計、製造されています。

## 4.2 各部の名称と機能




注】 イラストは実機と異なる場合があります。

| No. | 名称 | 説明 |
|---|---|---|
| A | ハンドル | ここを持って雑草刈機を操作します。 |
| B | 走行クラッチレバー | 走行、停止を制御するレバーです。<br>入：走行を開始します。<br>切：走行を停止します。 |
| C | 刈刃クラッチレバー | 刈刃を回転、停止するレバーです。<br>入：刈刃の回転を開始します。<br>切：刈刃の回転を停止します。 |
| D | 変速レバー | 走行速度を調整するレバーです。 |
| E | スロットルレバー | エンジンの回転を調整するレバーです。<br>（位置）　（意味）　（用途）<br>"🐇"　高速　・・・草刈作業<br>"🐢"　低速　・・・アイドリング |
| F | サイドクラッチレバー | 旋回するためのレバーです。<br>右側：握ると右旋回します。<br>左側：握ると左旋回します。 |
| G | 刈取部 | |
| H | 刈取高さ調整ハンドル | 刈取高さを調整するハンドルです。 |
| I | クローラ | |
| J | 給油口 | ガソリンの供給口です。 |
| K | リコイルスタータ | ノブを引っ張ってエンジンを始動します。 |
| L | エアクリーナ | |
| M | マフラー | |
| N | 点火プラグ | |
| O | プラグキャップ | |
| P | 燃料コック | 燃料を供給します。"ON"：燃料供給　"OFF"：燃料停止 |
| Q | 刈刃 | |
| R | 刈刃取付ボルト | 刈刃を取り付けるためのボルトです。 |
| S | オイルタンクキャップ | オイル供給口のキャップで、オイルゲージが付いています。 |
| T | 緊急停止レバー | 走行クラッチレバーと刈刃クラッチレバーを同時に"切"に戻すレバーです。 |
| U | エンジン停止スイッチ | エンジンを停止するためのスイッチです。"STOP"部をエンジンが停止するまで押し続けます。 |

## 5. 仕様一覧

| | | |
|---|---|---|
| 型式 | | BC600 |
| 全長 x 全幅 x 全高 | | 2,000 x 819 x 1,200 mm |
| 刈幅 | | 600 mm |
| 重量 | | 140 kg |
| 刈高 | | 50 ~ 120 mm |
| ベルト (本) | 走行 | RA-52 |
| | 刈刃 | RB-68 |
| クローラサイズ | | 120 x 20 x 60 RN |
| ハンドル | | ボルト締結3段伸縮式 |
| 速度 (無段階変速) | 前進 | 最大 4 km / h (1.1 m / s) |
| | 後進 | 最大 2 km / h (0.6 m / s) |
| エンジン | 名称 | BRIGGS & STRATTON PROFESSIONAL SERIES 850 MODEL 12Q9 |
| | 排気量 | 190 (cm³) |
| | 最大トルク | 11.5 Nm / 3,060 rpm |
| | 始動方式 | リコイルスタータ |
| | 点火プラグ | Champion RC-12YC |
| | 燃料タンク容量 | 1.1 (リットル) |
| | エンジンオイル容量 | 0.65 (リットル) |

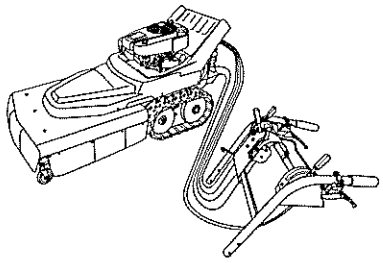
※エンジン最大出力は、エンジン単体での値を記載。
この仕様は、改良のため予告無しに変更することがあります。

## 6. 付属品一覧 (購入後にご確認ください) ・組付要領

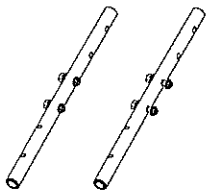
| 内容 | 数量 |
|---|---|
| 本機 | 1 |
| 取扱説明書 | 1 |
| 保証書 | 1 |
| ハンドルジョイント | 2 |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

### 6.1 梱包部品

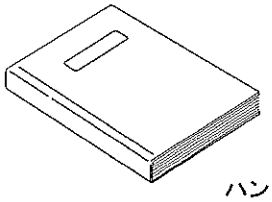
本機



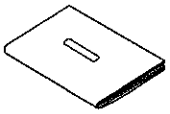
ハンドルジョイント



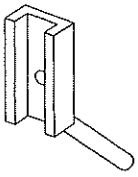
取扱説明書



保証書



ハンドル

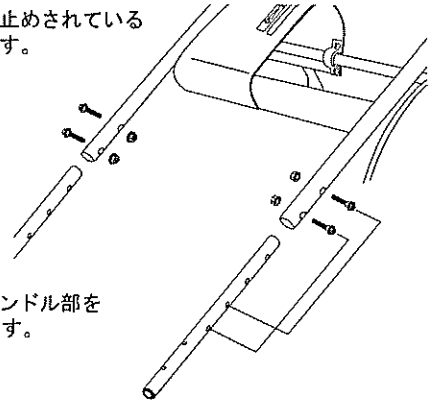


刈取高さを調整する時に
使用してください。

・メガネ …… 安全の為、作業中は着用してください。
・スパナ 17×19 ……
・スパナ 10×13 2本 …… クローラの調整に使用します。
工具袋へ入れて携行してください。
・プラグボックス
・プラグボックスバー
・エンジンオイル (部品番号:100005JP)
・フレッシュスタート (部品番号:100031JP)

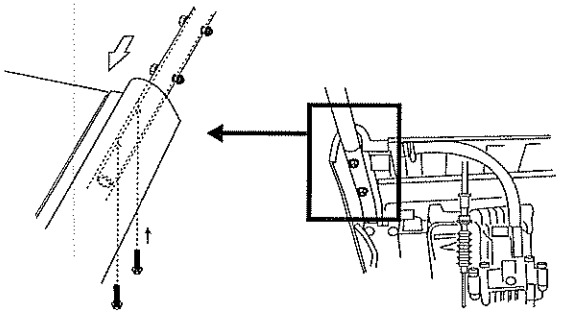
### 6.2 組付要領

1 ハンドルジョイントに仮止めされている
ボルト、ナットを外します。



2 ハンドルジョイントとハンドル部を
図の位置にて仮止めします。
(右図参照)

3 本機部と仮止めしたハンドルジョイントを指定の位置で
締め付けます。(下図参照)



4 各レバーが正常に動作することを確認してください。

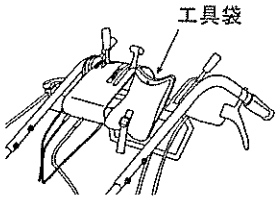
5 ボルト、ナットを締め付けます。

**⚠ 注意**
・組付部分のボルト・ナットは確実に締め付けられている事を確認して作業を行ってください。

### 6.3 工具袋

1 工具袋に付属品を入れて作業に携行してください。
※工場出荷時には、工具袋へ
入っています。

2 工具袋は図の様に取り付けてください。
(右図参照)



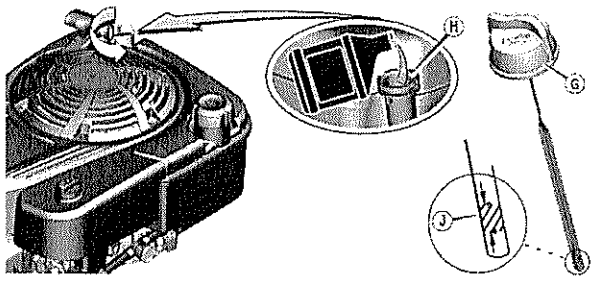
# 7. 運転

## 7.1 運転前の準備・点検

機械を水平な場所に置いて作業してください。

> ⚠ 危険
> 点検を行うときは必ずエンジンを停止し、プラグキャップを外してください。

### 7.1.1 エンジンオイル量の点検




- エンジンを水平にします。
- オイル注入口の周りを清掃します。

1. ディップスティック(G)を外し、きれいな布でふき取ります。
2. ディップスティックを差込み、ねじ込みます。
3. ディップスティックを引き抜き、オイルレベルを確認します。
   オイルレベルはディップスティック(J)に表示されている「FULL」の位置にあることを確認してください。
4. 不足していればゆっくりとオイルを入れます。 注】(H)入れすぎないこと。
   追加した場合は1分ほど待ってからオイルレベルを確認してください。
5. ディップスティックを元通りに取り付けます。

### 7.1.2 燃料の給油(作業時の注意は、3.4章を参照してください。)

1 燃料タンクキャップ(J)を開け、ガソリンを給油してください。もしガソリンがこぼれた場合は直ちに布で拭き取ってください。

2 補給後、燃料タンクキャップ(J)をしっかり閉めてください。

### 7.1.3 各部の点検

1 全てのボルト・ナット・ネジ類が確実に締まっているか確認してください。

2 カバー・ガード類が確実に組み付いているか確認してください。

3 刈刃の点検は9.7、14章を参照してください。

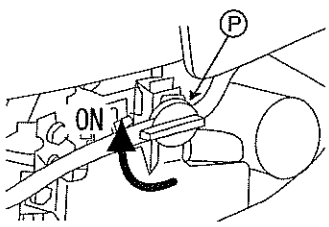
## 7.2 エンジンの始動と停止

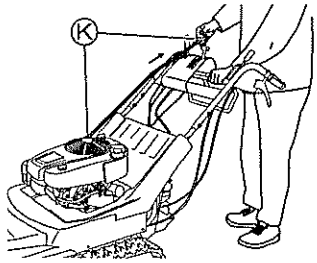
### 7.2.1 始動

1 プラグキャップ(O)を取り付けてください (4.2章参照)。

2 燃料コック(P)を"ON"にしてください。

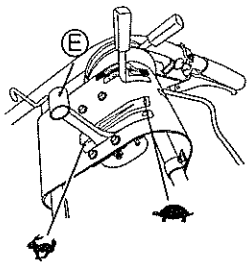
3 リコイルスタータ (K) を軽く引っ張って重くなる位置で一旦止め、止めた位置から力強く引っ張るとエンジンがかかります。
その後、リコイルスタータ (K) をゆっくり戻してください。




> ⚠ 注意
> ・リコイルスタータ (K) のノブを引く時は、後方に人が居ないか確認してください。
> ・リコイルスタータ (K) のノブはしっかり持って引っ張ってください。
> ・リコイルスタータ (K) のノブはゆっくり戻してください。

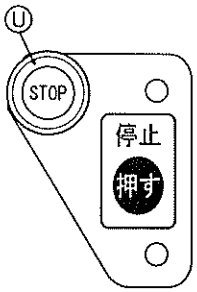
5 暖機運転をしてください。
エンジンが暖まればスロットルレバー(E)を"🐢"にし、作業開始してください。



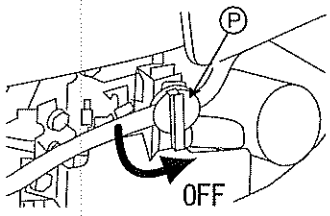

注】
スロットルレバー(E)を"🐢"で、刈刃クラッチレバー (C) を "入" にすると、エンジンがストールします (4.2章参照)。

### 7.2.2 停止

1. エンジン停止スイッチ(U)を押して、エンジンが停止するまで押し続けてください。




2. 燃料コック(P)を"OFF"にしてください。




注】
エンジン停止スイッチ(U)を押してもエンジンが停止しない場合には、燃料コック(P)を"OFF"にしてエンジンを停止させてください。

- エンジンの始動時は、刈刃クラッチレバーと走行クラッチレバーを"切"にしてください。

## 7.3 運転(刈取り・走行)

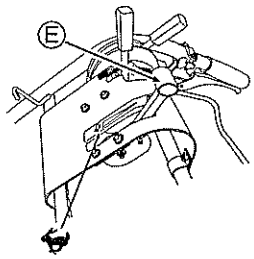
この取扱説明書の指示に従い、草刈作業を正しく安全に行ってください。

**⚠ 警告**
3章を含む安全に関する記載内容をよく理解した上で作業を行ってください。

**⚠ 注意** 各レバー類は確実に操作してください。

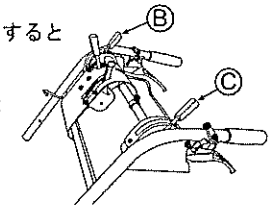
1 始動前の点検を行ってください。
(7.1章参照)

2 刈取り作業をする際は、スロットルレバー(E)を"🐢"にしてください。

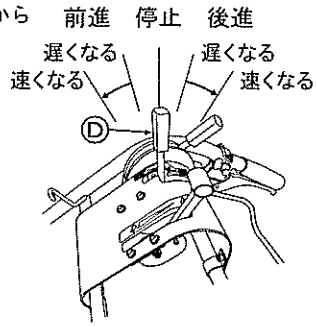



3 刈刃クラッチレバー(C)を"入"にすると刃物が回転します。

4 刈刃クラッチを"切"にすると回転が停止します。




5 走行クラッチレバー(B)を"入"にしてください。
変速レバー(D)を"N(中立)"から前進方向に倒すと前進します。
変速レバー(D)を"N(中立)"から後進方向に倒すと後進します。

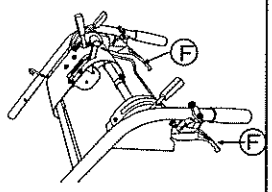



注】
走行クラッチレバー(B)を"入"にする時は必ず変速レバー(D)を"N(中立)"にしてください。

6 図のように前進方向に倒すと走行スピードが速くなります。

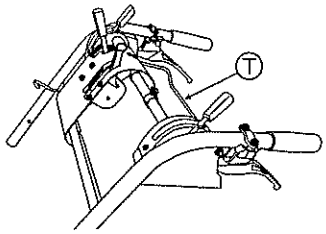
7 走行クラッチレバー(B)を"切"にすると走行が停止します。

8 走行中に右側のサイドクラッチレバー(F)を握ると右に旋回します。



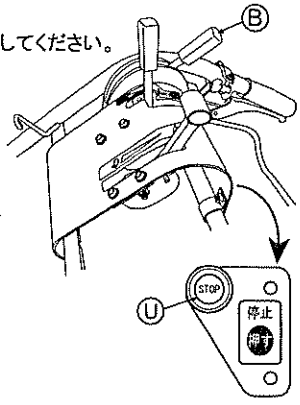

9 走行中に左側のサイドクラッチレバー(F)を握ると左に旋回します。

10 緊急停止レバー(T)を押すと刈取クラッチレバーと走行クラッチレバーが同時に"切"になります。




注】
作業場所や草の状態に合わせ、速度を調整してください。

11 作業を中断または終了する時は、走行クラッチレバー(B)と刈刃クラッチレバー(C)を"切"にしてください。
エンジン停止スイッチ(U)を押し、エンジンが停止するまで押し続けてください。




## 7.4 刈取高さの調整

本機後部の刈取高さ調整ハンドルで、刈取高さを調整してください。

**⚠ 注意**
刈取高さ調整ハンドルを操作する時は、手や指をはさまれないように注意してください。

1 必ずエンジンを停止してください。

2 工具袋の中のハンドルを図のように取付けてください。

3 刈取高さ調整ハンドル(H)を回して調整してください。
時計回り :高くなる
反時計回り :低くなる

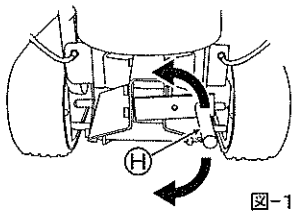



図-19

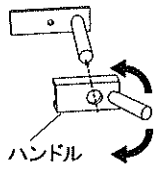



図-20

# 8. 各部の調節

**⚠ 警告**
点検・整備時の注意3.5.4章を参照し、安全に作業を行ってください。

## 8.1 ハンドルの高さ調節

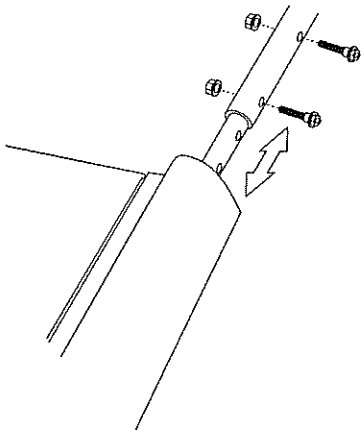
3段階の高さ調整が可能です。

1 ボルト、ナットを外します。

2 ハンドルジョイントとハンドルをスライドさせて穴の位置を合わせてください。

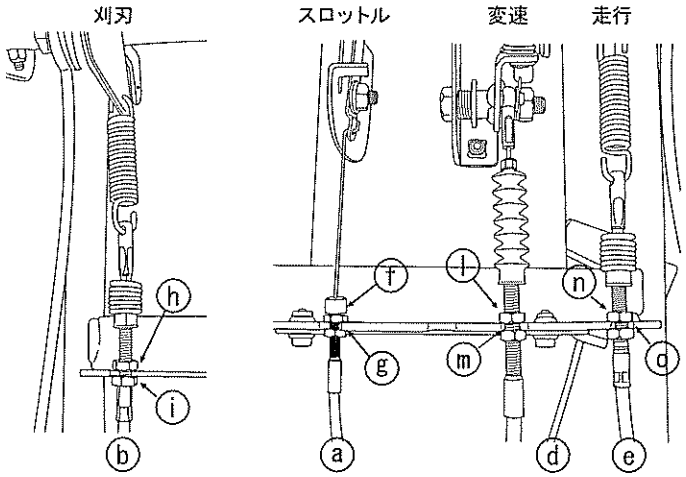
3 ボルト、ナットを締め付けます。

4 各レバーが正常に動作することを確認してください。



## 8.2 ワイヤの調整

注】
各ワイヤは,正しく調整されていないと性能不良や故障につながります。

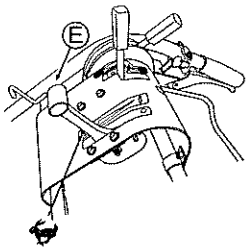



### 8.2.1 スロットルワイヤ

1 スロットルレバー（E）を高速位置"🐇"にしたとき、エンジンのコントロールレバーをいっぱいまで引いていることを確認してください。

2 調整が必要な場合、スロットルワイヤ（a）のロックナット（f）を緩めてアジャストナット（g）を回して調整します。

3 最適な位置にあわせてロックナット（f）を締め付けます。




### 8.2.2 刈刃クラッチワイヤ

刈刃クラッチレバーを"入"にした状態で刈刃が回転するように調整します。

1 調整が必要な場合、刈刃クラッチワイヤ（b）のロックナット（h）を緩めてアジャストナット（i）を回して調整します。

2 最適な位置にあわせてロックナット（h）を締め付けます。

3 刈刃クラッチレバー（C）を"切"にすると確実に刈刃が停止することを確認してください。

### 8.2.3 走行クラッチワイヤ

走行クラッチレバーを"入"にした状態で走行するように調整します。

1 調整が必要な場合、走行クラッチワイヤ（e）のロックナット（n）を緩めてアジャストナット（o）を回して調整します。

2 最適な位置にあわせてロックナット（n）を締め付けます。

3 走行クラッチレバー（B）を"入"にした状態で走行し、"切"にした状態で本機が停止することを確認してください。

### 8.2.4 変速ワイヤ

変速レバーの調整を行います。

1 調整が必要な場合、変速ワイヤ（d）のロックナット（l）を緩めてアジャストナット（m）を回して調整します。

2 最適な位置にあわせてロックナット（l）を締め付けます。

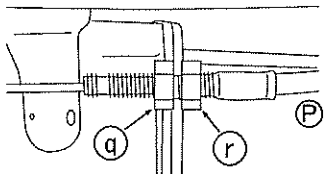
3 エンジンを始動し、変速レバー（D）を操作し、走行速度が切り替わることを確認してください。

注】
上記の方法で調整しても正常に作動しない場合は、販売店に調整を依頼してください。

### 8.2.5 サイドクラッチワイヤ

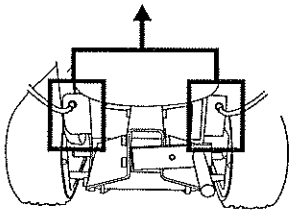
サイドクラッチレバーを握ると本機が旋回するように調整します。

1 調整が必要な場合、サイドクラッチワイヤ（P）のロックナット（q）を緩めてアジャストナット（r）を回して調整します。




2 最適な位置にあわせてロックナット（q）を締め付けます。

3 エンジンを始動し、走行させてサイドクラッチレバー（F）を握ると本機が旋回することを確認してください。



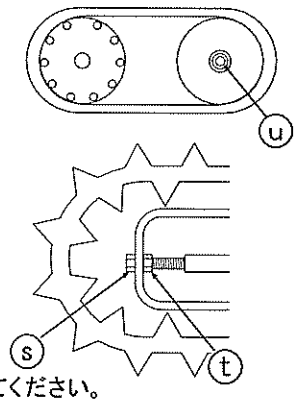
## 8.3 クローラの調整

注】
クローラが正しく調整されていないとクローラが外れる恐れがあります。この作業は付属工具を使用してください。

1 ホイールナット（u）をスパナ<19>でゆるめます。

2 ロックナット（t）をスパナ<13>2本でゆるめます。

3 アジャストボルト（s）スパナ<13>で調整します。
締める：張る
緩める：緩くなる

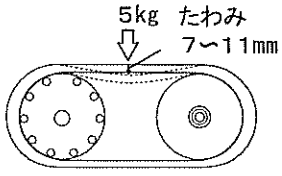



注】
アジャストボルトは左右均等に締め付けてください。

4 ロックナット（t）とホイールナット（u）を締め付けます。

・クローラの中心部を手で押して、たわみを点検してください。

たわみ規定量：7〜11mm/5kg



## 8.4 ベルトの調整

注】
ベルトは初期のびが多少あります。新品より２～３時間運転後、確認と再度調整を行ってください。
・調整時、エンジン停止し、安全のため、プラグキャップを外してください。

### 8.4.1 ベルト押さえの調整

ベルト押さえ ①→⑧番号順に位置の確認と調整を行います。刈刃クラッチレバー・走行クラッチレバーを"入"にした状態で調整を行います。
調整が必要であれば、各指定位置に調整を行ってください。

① ベルト押さえの締付ボルトが、長穴の端に当る位置で、ベルト押さえが、刈刃プーリの中心を狙った位置にあるか確認します。

② ベルト押さえがフランジボルトに乗り上げ無い位置で、走行用ベルトとのスキマ：7mmであるか確認します。

③ ②のベルト押さえと平行にして、刈刃用ベルトとのスキマ：2mmであるか確認します。

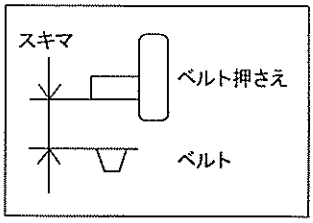
④ ベルト押さえが刈刃用ベルトに接触する位置であるか確認します。

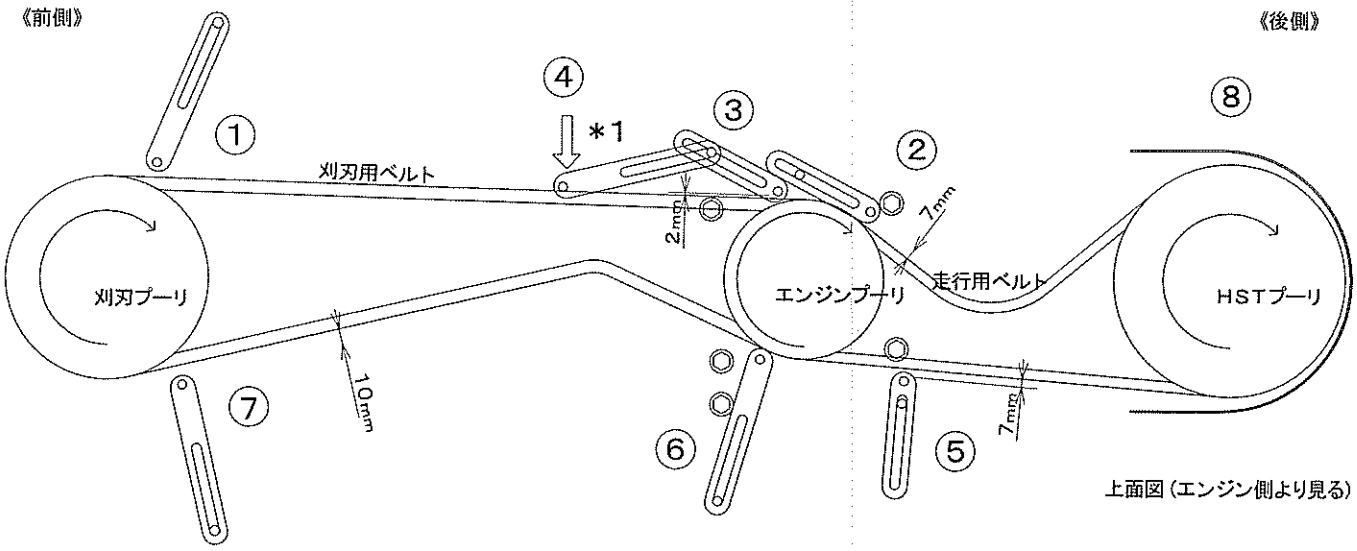
⑤ ベルト押さえが走行用ベルトに直角になる向きで走行用ベルトとのスキマ：7mmであるか確認します。

⑥ ベルト押さえの締付ボルトが、長穴の端に当る位置で左側のボルトと接触していることを確認します。

⑦ ベルト押さえが刈刃用ベルトとのスキマ：10mmであるか確認します。

⑧ ベルト押さえがHSTプーリと走行用ベルトに接触しないギリギリの位置であるか確認します。




### 8.4.2 刈刃クラッチレバーの調整

刈取用ベルトが伸びた際は刈刃クラッチワイヤの調整を行ってください。（8.2.2章参照）

### 8.4.3 走行クラッチレバーの調整

走行用ベルトが伸びた際は走行クラッチワイヤの調整を行ってください。(8.2.3章参照)

注】
調整内容が複雑なので、ベルト調整は販売店に依頼してください。

注】
ベルトは消耗品です。異常があれば新品と交換してください。

# 9. 点検・整備

## 9.1 清掃

- 本機および警告ラベルが汚れた場合は、汚れを拭き取ってください。
- 故障の原因になるので、直接ホース等で水をかけないでください。
- 清掃後、乾拭きして水気をよく取り，油を染み込ませた布で金属表面を拭いてください。

## 9.2 チェックリスト

| 稼働時間 | | 毎回 | 時間 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 25 | 50 | 100 |
| エンジンオイル (7.1.1, 9.4) | 点検 | ○ | | | |
| | 交換 | | | ○* | |
| エアクリーナ (9.5) | 清掃 | | ○ | | |
| ボルトの緩み (9.8) | 点検 | ○ | | | |
| 燃料 (7.1.2) | 補給 | ○ | | | |
| 点火プラグ (9.6) | 清掃 | | | | ○ |
| | 調整 | | | | ○ |
| 刈刃 (9.7) | 点検 | ○ | | | |
| 刈刃ボルト (9.7.1) | 点検 | ○ | | | |
| スロットルワイヤ (8.2.1) | 調整 | | | | ○ |
| 走行クラッチワイヤ (8.2.3) | 調整 | | | ○ | |
| 刈刃クラッチワイヤ (8.2.2) | 調整 | | | ○ | |
| | 点検 | | | ○ | |
| 変速ワイヤー (8.2.4) | 調整 | | | ○ | |
| バルブ隙間 | 調整 | | | | ○** |
| 燃焼室 | 清掃 | | | | ○** |
| 燃料タンク | 清掃 | | | | ○** |
| ストレーナ | 清掃 | | | | ○** |
| 燃料チューブ | 点検 | | | | ○ |
| ベルトの張り | 点検 | ○ | | | |
| チェーンの張り | 点検 | | | | ○ |

* 購入後、初回のみ 5時間使用後にオイル交換を行ってください。以後、50時間毎に汚れ具合に応じてオイル交換してください。
** この点検項目は、整備技術及び特殊工具が必要ですので、販売店へご相談ください。( )内はこの取扱説明書の参照項を示します。

## 9.3 各部の注油

1 各部のスムーズな動作を保つために、油差しで定期的に軸及び軸受け部分に注油を行ってください。

2 本機前方の車輪及びホイールガイドに毎作業後、注油を行ってください。

## 9.4 エンジンオイルの交換

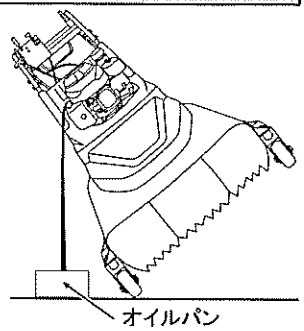
注】
- エンジンオイル排出のためエンジンを傾けるときは、先にガソリンを抜いてください。
- 本機を傾けるときは、燃料コックを閉じ、エンジンのキャブレター側が上になるように右側に倒します。キャブレターが下になると、ガソリンがこぼれ危険です。ガソリンやオイルがこぼれないよう注意してください。
  こぼれた場合は直ちに布で拭き取ってください。
- 排出後のエンジンオイルは各国の法令に従い適正に処理してください。

**⚠ 注意**
エンジン停止直後はエンジン本体やマフラーなど高温になっているので、やけどに十分注意してください。

1 オイルタンクキャップを外してください（7.1.1章参照）。

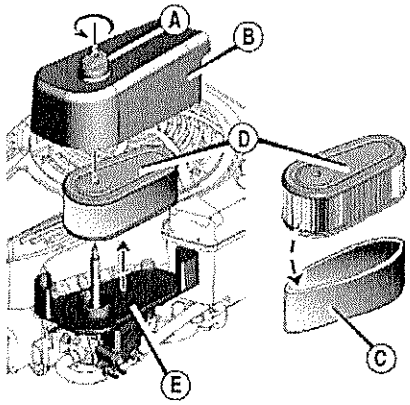
2 本機を右（オイルタンクキャップが下）になる様に傾けてエンジンオイルを排出してください。（右図参照）

3 排出終了後、新しいエンジンオイルを入れてください。




## 9.5 エアクリーナ

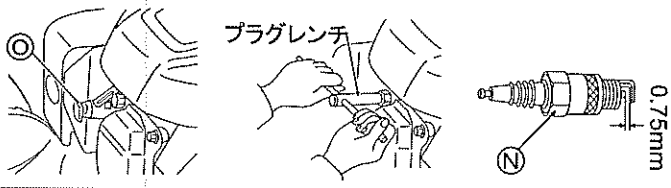
1. ウイングナット(A)を緩め、エアクリーナ・カバー(B)を外します。
2. プリクリーナ(C)を外し、フィルタ(D)を外します。
3. ゴミを取り除くために、ゆっくりとフィルタを平らな面で軽く叩きます。汚れが著しい場合は新品と交換してください。
4. プリクリーナは洗浄水で洗い、乾燥させます。オイルは含ませないでください。
5. 乾燥したプリクリーナをフィルタに取り付けます。
6. ベース(E)にプリクリーナとフィルタをしっかりと取り付けます。
7. エアクリーナ・カバーを取り付けウイングナットをしっかりと締め付けます。




注】 詳しくは、別冊のエンジン取扱説明書を参照ください。

## 9.6 点火プラグ

1. プラグキャップ(O)を外してください。
2. 付属のプラグボックスとプラグボックスバーで点火プラグ(N)を外してください。
3. 点火プラグ(N)に多量のカーボンが付着している、絶縁体にヒビが入っている、破損している等の場合は交換してください。
4. 電極に付着しているカーボンを除去して、電極の隙間を0.75mmに調整してください。
5. 点火プラグ(N)とプラグキャップ(O)を元通りに取り付けください。



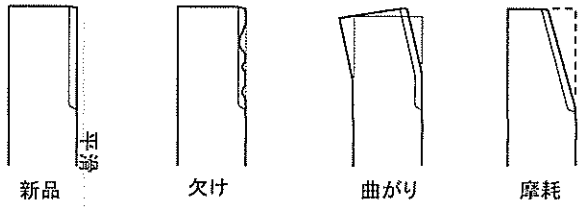

## 9.7 刈刃

注】
本機を傾けるときは、燃料コックを閉じ、エンジンのキャブレター側が上になるように右側に倒します。キャブレターが下になると、ガソリンがこぼれ危険です。ガソリンやオイルがこぼれないよう注意してください。
こぼれた場合は直ちに布で拭き取ってください。

### 9.7.1 刈刃取付けボルトの点検

**⚠ 危険**
刈刃を点検するときは、エンジンを停止し、点火プラグを外してください。

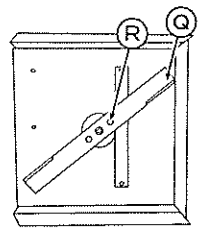
**⚠ 注意**
刈刃を点検・着脱するときは、厚手の手袋を着用してください。



1 刈刃(Q)に欠け、曲がり、摩耗がないか確認してください。

2 刈刃(Q)・刈刃取付ボルト(R)に「磨耗」「破損」「変形」がある場合は、当社指定の新しい部品と交換してください。

3 刈刃取付ボルト(R)が指定トルクで締め付けられているか確認してください。




(刈刃取付ボルト(R)の締め付けトルク:29～39Nm)

注】
安全の為、作業は２人で行ってください。

9.7.2 刈刃の着脱

取外し

1 刈刃取付ボルト(R)を緩め、刈刃(Q)を外してください。

取付

1 刈刃取付部のまわりのゴミや草を取り除き、汚れを落としてください。

2 刈刃取付ボルト(R)を手でいっぱいまで締め付けてください。

3 刈刃取付ボルト(R)を指定トルクで締め付けてください。

(刈刃取付ボルト(R)の締め付けトルク:29～39Nm)

注】
研磨した刈刃はバランスのチェックが必要です。中央の穴にドライバなどを通して、刈刃が水平になるように研磨してバランスを取ってください。

## 9.8 各部の点検

全てのボルト・ナット・ネジ類が確実に締まっているか確認してください。

# 10. 運搬

## 10.1 積み降ろし

1 刈取高さを上げて刃物が歩み板と接触しない位置まで調整してください。

2 本機前方の車輪を歩み板の溝に落とさない様に注意してください。車輪が溝に落ちると転倒する恐れがあります。

3 歩み板の上でサイドクラッチ及びレバー類の操作はしないでください。転倒する恐れがあります。

参考】歩み板は基準にあった、十分な強度のあるものを使用してください。
- 長さ…トラック荷台の高さの3.5倍以上あるもの。
- 幅……本機のクローラ幅にあったもの。
- 溝幅…本機前方の車輪が落ち込まない幅のもの。

## 10.2 運搬中

⚠ 危険
エンジンを停止し、プラグキャップを取外してください。
本機を傾けたまま放置・運搬しないでください。(3.5.5 章参照)

1 燃料コックを閉めてください。(7.2.2章参照)

2 ハンドルは状況に応じて取り外してください。
もし外した場合は、ネジを無くさないよう元の位置に仮締めしてください。

3 刈高さを最も下げた状態で運搬してください。刈高さを上げた状態で運搬すると、走行機能に支障を及ぼす可能性があります。

# 11. 長期の保管

## 11.1 保管

30日間以上エンジンをかけない場合、次の作業を行ってください。

⚠ 危険
以下の作業の前にエンジンを停止し、プラグキャップを取外してください。

- 草刈機を30日以上保管する場合には、燃料が劣化します。
- 劣化した燃料は燃料システムや重要なキャブレタ部分に粘性物質が形成します。
- これを防ぐためにタンク内の燃料に付属品のガソリン添加剤弊社の「フレッシュスタート」(100031JP)を使用してください。
- 付属品100031JP(29cc)を20リットルのガソリンに混ぜると約12ヶ月間ガソリンの劣化を防止します。
- この添加剤を含んだガソリンをタンクに入れ、エンジンを2分ほど運転し、ガソリン添加剤がキャブレタに循環するようにしてください。
- 燃料劣化防止剤を使用しない場合、保管時にはタンクやキャブレタ等の燃料システムからガソリンを完全に抜いてください。

1 エンジンオイルを交換し(9.4章参照)、5分ほどアイドリング運転してください。

2 燃料タンクおよびキャブレターから燃料を抜いてください。

3 エアクリーナを清掃してください。(9.5章参照)

注】
詳細はエンジンの取扱説明書を参照してください。
キャブレター内に残った燃料を排出することで、エンジンのかかりが悪くなるなどの燃料を原因とするトラブルを防止します。

4 刈刃及び各部を清掃し、締め付けを点検してください。

5 オイルを染み込ませた布で金属部分を拭いてください。

6 点火プラグを外し、シリンダ内にエンジンオイルを5-10cc程度注入してください。

7 点火プラグを清掃してから取り付けてください。(9.6章参照)

8 リコイルスタータを2,3回引いたのち、重さを感じる位置までゆっくり引っ張ってください。

9 作業終了後、乾燥し埃の少ない平らな場所でカバーを掛けて保管してください。

注】
異常のある部品は修理または交換してください。交換部品は指定のものを使用してください。

# 12. 廃棄

- エンジンオイル、ガソリンおよび機械本体が不要になった場合は、お住まいの国の法律または地方の条例に従って処分するか、お買い上げ店にご相談ください。
- 土壌汚染、水質汚染の原因になるので絶対に不法投棄はしないでください。
- ガソリンやオイルを拭き取った布は、一般ごみとは分けて処分してください。

# 13. トラブルシューティング

これらの対策を行っても正常に戻らない場合は、販売店にご相談ください。むやみに分解を行わないでください。

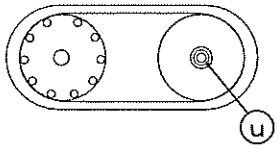
| 現象 | 原因 | 参照頁 |
|---|---|---|
| エンジンがかからない | 燃料がない | 7.1.2 |
| | エンジンオイルが規定量入っていない | 7.1.1 |
| | | |
| | プラグキャップが外れている | 7.2.1 |
| | シリンダ内に過度のガソリンが吸入されている | |
| | エアクリーナが汚れている | 9.5 |
| かかりが悪い<br>エンジンの力が弱い | エアクリーナが汚れている | 9.5 |
| | キャブレターが詰まっている | |
| | 水がガソリンタンクやキャブレターに入っている | |
| | 燃料タンクキャップが開いている | |
| | スロットルワイヤの調整不良 | |
| | ガソリンが汚れている | |
| エンジンのオーバーヒート | 点火プラグの隙間が不適正 | 9.6 |
| | エアクリーナが汚れている | 9.5 |
| | 冷却フィンが汚れている | |
| | エンジンオイルが不足している | 7.1.1 |
| | リコイルスタータが詰まっている等 | |
| 異常に振動する | 刈刃やエンジンの取付けが緩んでいる | 9.8 |
| | 刈刃のバランスが悪い | 9.7.2 |

## ● クローラの取付け。
(8.3章参照)

① エンジンを停止させて燃料コックを"OFF"にしてください。

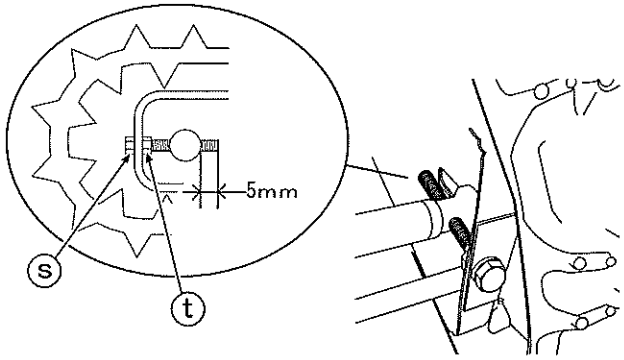
② 左右のホイールナット（u）をゆるめて、クローラを取付ける側は取外してください。

〔付属工具　スパナ　19を使用〕

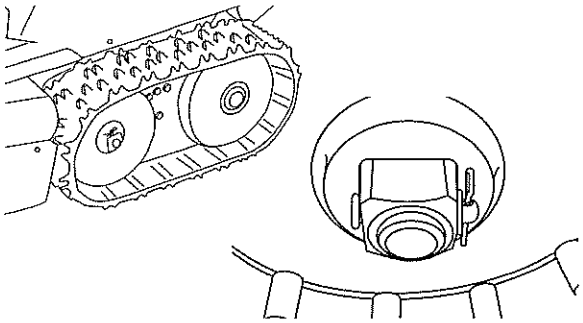



③ 左右のロックナット（t）をゆるめ、アジャスタボルト（s）を5mm以下にゆるめてください。

〔付属工具　スパナ　13×2本を使用〕

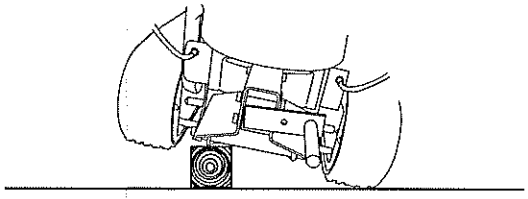



④ 取付ける側のスナップピン、ワッシャ、頭付ピンを外してください。



⑤ 取付ける側に枕木等を入れて地面から浮かしてください。

注】
手や足をはさまないように注意してください。



⑥ 前輪と後輪を外してください。

⑦ クローラに前輪と後輪を合わせて元に戻してください。

⑧ ⑤で外した部品を組付けてください。

⑨ 枕木を外してください。

⑩ 左右のクローラの張り調整を行ってください。

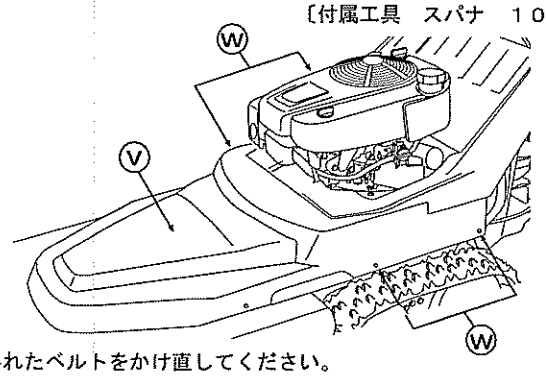
⑪ 左右のホイールナットを締め付けてください。

## ● ベルトが外れた場合。
(8.4章参照)

① エンジンを停止させて燃料コックを"OFF"にしてください。

② 4本のボルト（w）を外した後、カバー（v）を外してください。

〔付属工具　スパナ　１０を使用〕




③ 外れたベルトをかけ直してください。

④ カバーを取付けた後、運転確認を行ってください。

⑤ 頻繁に外れる場合は、ベルト押さえの調整またはベルト交換を販売店へ依頼してください。

## 14. 上手な作業のしかた

### ● 通常作業

① まずは、低速でスタートしてください。

② その後、作業状況に応じて走行スピードを調整してください。

### ● 草が多くエンストしそうな場合

① 走行スピードを遅くしてください。

② それでもエンストしそうな場合は刈刃クラッチを“切”にしてください。

③ 後方の安全を確認後、1~2m程度後進してください。

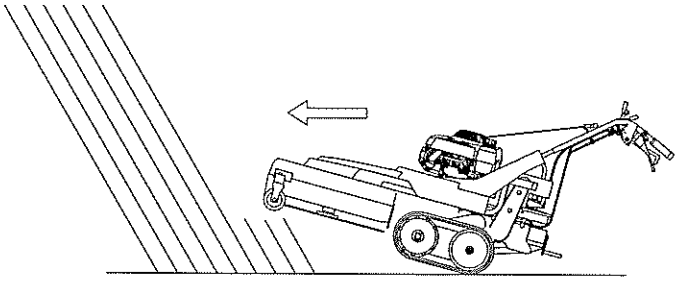
④ 本機の前方を少し上げて刈取を“入”にしてください。
刈取部内の溜った草が排出します。

⑤ それでもエンストしそうな場合は、下記の●刈取部に草が巻きつき、エンストしてしまう。を参考にしてください。

### ● 丈の長い草を刈る場合

① 刈取高さを最大にしてください。

② 本機の前方を上げるように、ハンドルを下に抑えつけてください。



③ フロントが上がった状態で、長い草を刈取します。
ある程度進むと、草が進行方向に倒れます。
その後、本機をもとに戻して作業をしてください。

### ● 刈取部に草が巻きつき、エンストしてしまう

① エンジンを確実に停止させてください。

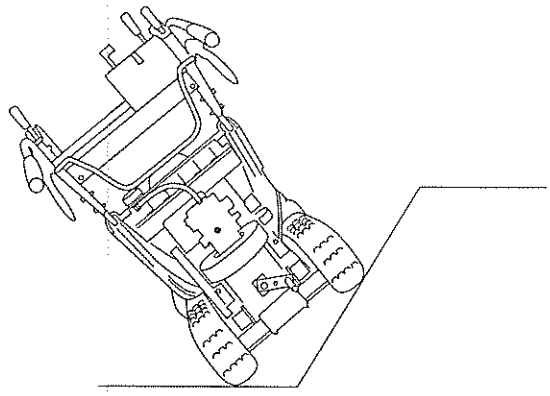
② 本機を横に倒してください。
（作業者から見て右側方向）

③ 刈取部内に巻きついた草を取り除いてください。⇒異常なければ、作業を再開してください。
＊発熱している場合があります。手袋をつけて作業してください。

本機に異常がある場合は、分解・整備を販売店へ依頼してください。

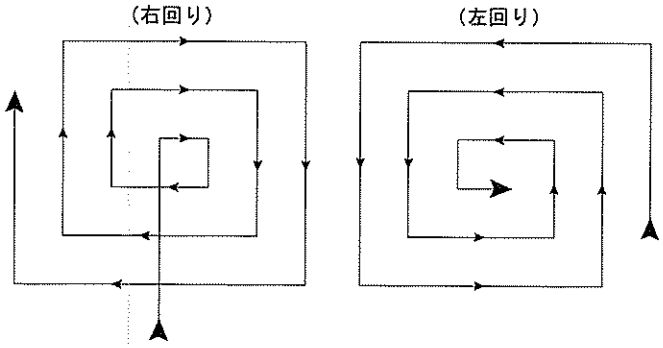
### ● クローラ外れの防止

① 片側がのり面に接地し、反対側が平坦な所に接地した状態だとクローラが外れる可能性があります。
その様な所での作業は、しないでください。



### ● なるべく周囲に草を飛散させたくない場合

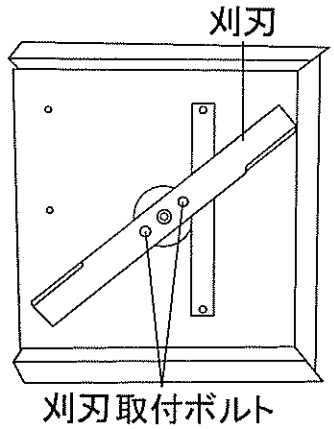
① 草を周囲に飛散させたくない場合は、右回りで作業をしてください。



## 15. 刈刃の点検・交換

⚠ 注意

- 安全に作業を行うために、刈刃の運転前点検を行ってください。
  刈刃の磨耗、破損、変形や刈刃取付ボルトのゆるみを放置すると、
  作業中刈刃が折損するなどして、障害事故を起こすおそれがあります。
- 交換するときは、当社指定の新しい部品と交換してください。
- 刈刃の取り付け部は工具を使用し、ゆるみのないことを確認してください。
  [指定トルク:29～39N·m(300～400kgf·cm)]
- 刈刃の点検・交換をするときは、エンジンを停止し点火プラグキャップを外してから厚手の手袋を着用して行ってください。刈刃でケガをするおそれがあります。
- 本機を傾けるときは、燃料コックを閉じ、エンジンのキャブレター側が上になるように右側に倒します。キャブレターが下になると、ガソリンがこぼれ危険です。ガソリンやオイルがこぼれないよう注意してください。こぼれた場合は直ちに布で拭き取ってください。
- 安全の為、作業は2人で行ってください。




本機を傾けたまま放置しないでください。始動が困難になります。

### 始業前の点検

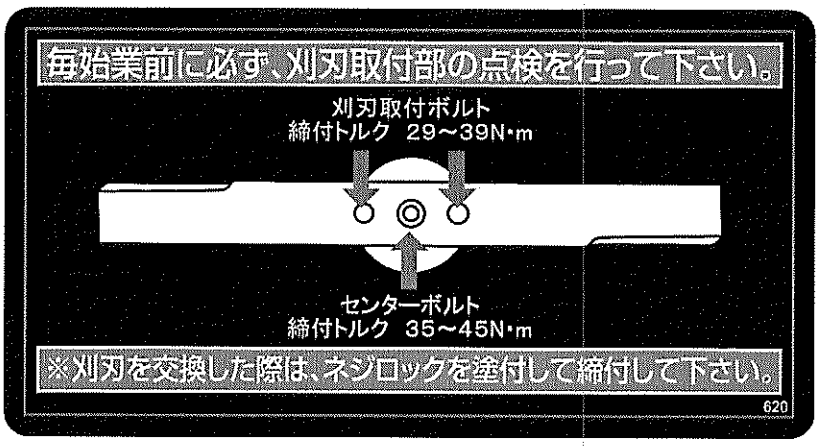
注】
当製品は非常に過酷な環境下で使用されます。お客様の安全を確保するためにも、『刈刃取付部』は必ず始業前に毎回点検するように徹底をお願い致します。当製品の管理者に限らず、ご使用になる方への徹底もお願い致します。

⚠ 注意

- 刈刃取付部は工具を使用し、『ゆるみ』のないことを確認してください。
- 刈刃に『ひび』『かけ』等の異常がないことを確認してください。

刈刃取付部の点検要領

- 毎始業前に必ず、刈刃取付部の点検を行って下さい。
- エンジンを停止し、厚手の手袋を着用して行って下さい。




ネジロック剤は中強度をご使用下さい。

### 作業中の注意

⚠ 注意

- 運転中に異常な振動や音を感じた場合、刈刃が石や切り株等の異物に当たった場合は、ただちにエンジンを停止し、刈刃が止まったことを確認した後、点検を行ってください。
- 刈刃は鋭く危険です。運転中は絶対に手足を刈刃に近づけないでください。

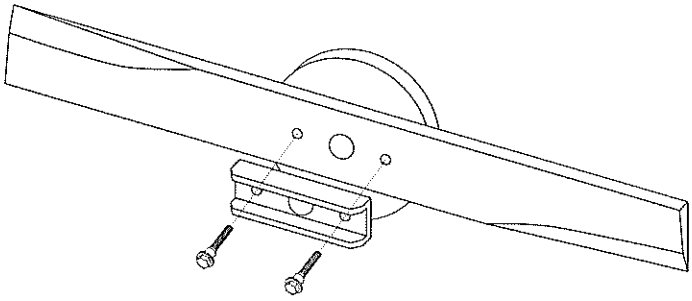
## 16. 刈刃の取り付け・取り外し

### 刈刃の取り付け

1 刈刃を取り付け、カバーを装着後、刈刃取付ボルトを手でいっぱいまで締め付ける。

2 工具を使用し、刈刃取付ボルトを指定トルクで締め付ける。
［指定トルク：29～39N・m（300～400kgf・cm）］

3 ボルト取付の際は、ネジロック（中強度品）を塗付してください。



・ 工具を使用し、2本の刈刃取付ボルトを均等に指定トルクで締め付けてください。

※ 刈刃取付ボルトを手で締め付ける時に、ネジ部に異常がないことを確認してください。

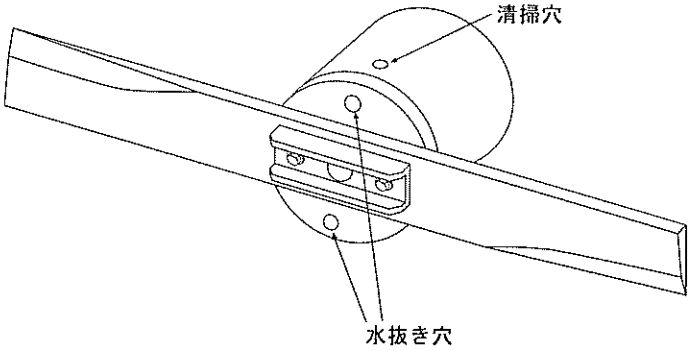
・ 異常がある場合は交換・修理を行ってください。

## 17. 刈取部の清掃

1 図中の清掃穴からエアブローをしてゴミを排出してください。

2 エアブローで取り除けないゴミは、清掃穴からホースなどで水を流して洗い流してください。

3 水洗い後は、水抜き穴から確実に水が抜けきった事を確認してください。



お客様へ：真心をこめて・・・「ありがとうございます。」

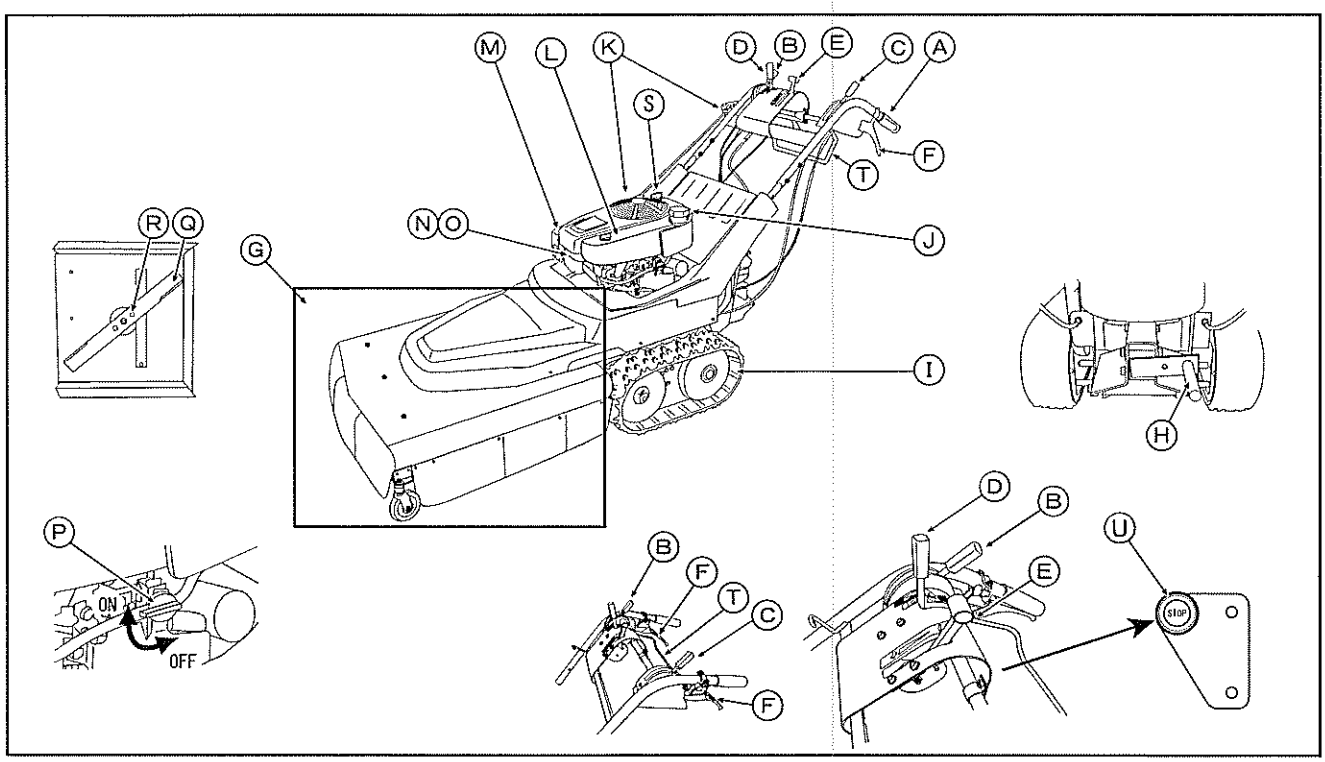
ブリッグス アンド ストラットン ジャパン

# 簡単操作ガイド

46019-134
11-03

簡単操作ガイドは取扱説明書を読んだ上でご使用ください。熟読後は付属の工具袋に入れ本機へ携行してください。

## 各部の名称と機能



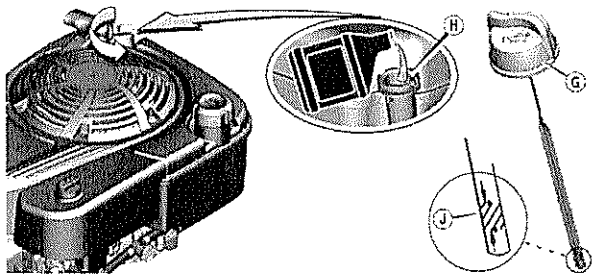

注】 イラストは実機と異なる場合があります。

| No. | 名称 | 説明 |
|---|---|---|
| A | ハンドル | ここを持って雑草刈機を操作します。 |
| B | 走行クラッチレバー | 走行、停止を制御するレバーです。<br>入：走行を開始します。<br>切：走行を停止します。 |
| C | 刈刃クラッチレバー | 刈刃を回転、停止するレバーです。<br>入：刈刃の回転を開始します。<br>切：刈刃の回転を停止します。 |
| D | 変速レバー | 走行速度を調整するレバーです。 |
| E | スロットルレバー | エンジンの回転を調整するレバーです。<br>（位置）　（意味）　（用途）<br>〃 🐇 〃　高速　・・・草刈作業<br>〃 🐢 〃　低速　・・・アイドリング |
| F | サイドクラッチレバー | 旋回するためのレバーです。<br>右側：握ると右旋回します。<br>左側：握ると左旋回します。 |
| G | 刈取部 | |
| H | 刈取高さ調整ハンドル | 刈取高さを調整するハンドルです。 |
| I | クローラ | |
| J | 給油口 | ガソリンの供給口です。 |
| K | リコイルスタータ | ノブを引っ張ってエンジンを始動します。 |
| L | エアクリーナ | |
| M | マフラー | |
| N | 点火プラグ | |
| O | プラグキャップ | |
| P | 燃料コック | 燃料を供給します。"ON"：燃料供給　"OFF"：燃料停止 |
| Q | 刈刃 | |
| R | 刈刃取付ボルト | 刈刃を取り付けるためのボルトです。 |
| S | オイルタンクキャップ | オイル供給口のキャップで、オイルゲージが付いています。 |
| T | 緊急停止レバー | 走行クラッチレバーと刈刃クラッチレバーを同時に"切"に戻すレバーです。 |
| U | エンジン停止スイッチ | エンジンを停止するためのスイッチです。"STOP"部をエンジンが停止するまで押し続けます。 |

## 運転準備

① 取扱説明書のとおり、梱包部品を本体へ組付してください。
（6.1,6.2項参照）

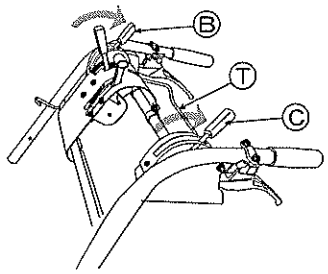
② エンジンオイルを確認してください。（7.1項参照）



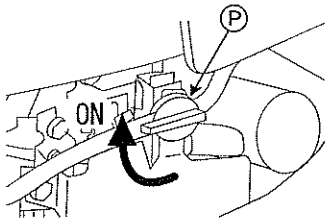

③ 燃料を確認してください。

## エンジンの始動と停止

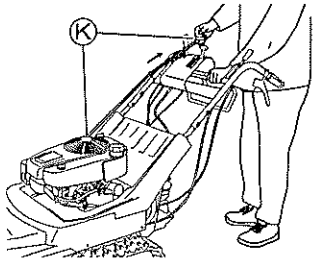
① 走行クラッチレバー（B），刈刃クラッチレバー（C）はいずれも“切”位置にしてください。
※緊急停止レバー（T）を押すとクラッチレバーは“切”にすることができます。



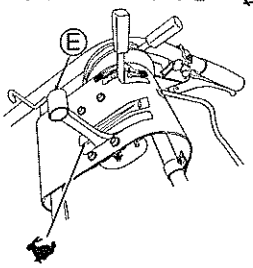

② 燃料コック（P）を“ON”にしてください。



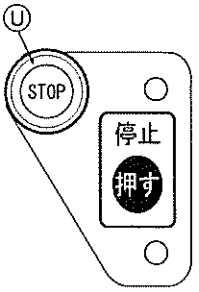

③ リコイルスタータ（K）を勢いよく引っ張ってください。
エンジン始動後はリコイルスタータ（K）をゆっくり戻してください。



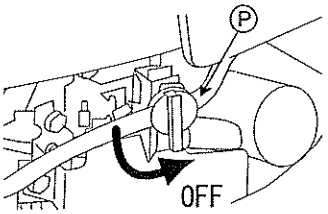

⑤ エンジン始動後はスロットルレバー（E）を“🐢”にし作業開始してください。




⑥ エンジンを停止する時は、エンジン停止スイッチ（U）を押してエンジンが停止するまで押し続けてください。



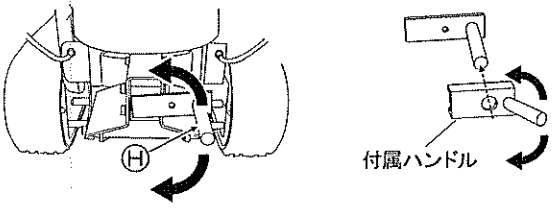

⑦ 燃料コック（P）を“OFF”にしてください。




## 刈取作業のしかた

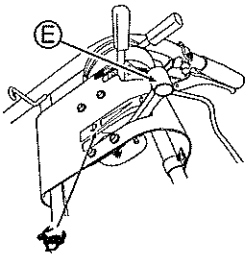
- 初めて本機を使用するときは、石等の異物のない平坦地を選んでください。
- 低速でまっすぐ刈ってください。
- 刈跡が少し重複するように刈ってください。

① 刈取高さ調整ハンドル（H）で刈取高さを調整します。
※最初は高めに刈取高さを調整し、作業状況に合せた刈取高さにしてください。



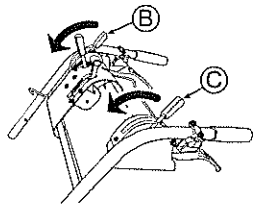

② エンジンを始動させてください。
（始動前に緊急停止レバーを押すことで各クラッチレバーが切れます。）

③ スロットルレバー（E）を“🐇”にしてください。



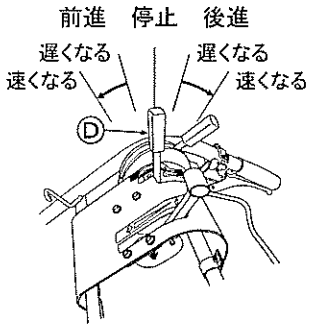

④ 刈刃クラッチレバー（C）を“入”にしてください。
※刈刃が高速回転を始めます。注意してください。

⑤ 走行クラッチレバー(B)を“入”にしてください。

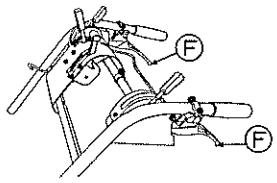



⑥ 変速レバー(D)を“停止”から前進方向に倒すと前進します。
レバーの位置によって走行スピードが変わります。

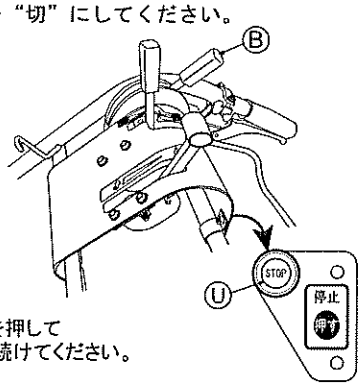
⑦ 変速レバー(D)を“停止”から後進方向に倒すと後進します。
レバーの位置によって走行スピードが変わります。




⑧ 走行中に左側のサイドクラッチレバー(F)〔または右〕を握ると左〔右〕へ旋回します。




⑨ 作業を停止する場合は、走行クラッチレバー(B)を“切”にし、刈刃クラッチレバー(C)を“切”にしてください。




エンジンを停止する時は、
エンジン停止スイッチ（U）を押して
エンジンが停止するまで押し続けてください。

## 上手な作業のしかた

### ● 通常作業

① 低速で作業してください。

② 作業状況に合わせて走行スピードを調整してください。

### ● 草が多くエンストしそうな場合

① 走行スピードを遅くしてください。

② それでもエンストしそうな場合は刈刃クラッチを“切”にしてください。

③ 後方の安全を確認後、1～2m程度後進してください。

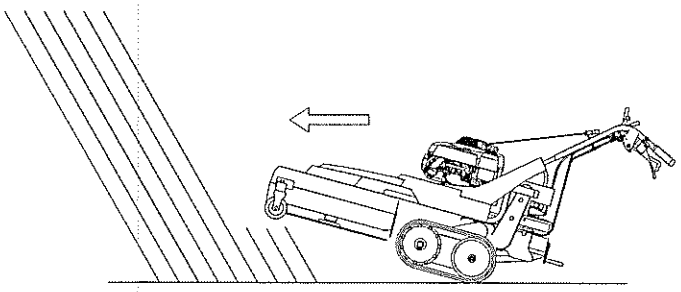
④ 刈刃クラッチを“入”にして刈取部内に溜った草を排出してください。

⑤ 刈取幅を少なくして作業を再開してください。

### ● 丈の長い草を刈る場合

① 刈取高さを最大にしてください。

② 本機の前方を上げるように、ハンドルを下に抑えつけてください。



③ その状態で刈取を開始してください。
草が進行方向に倒れて作業しやすいです。

### ● 刈取部に草が巻きつき、エンストしてしまう

① エンジンを確実に停止させてください。

② 本機を横に倒してください。
（作業者から見て右側方向）

③ 刈取部内に巻きついた草を取り除いてください。⇒異常なければ、作業を再開してください。
＊発熱している場合があります。手袋をつけて作業してください。

本機に異常がある場合は、分解・整備を販売店へ依頼してください。

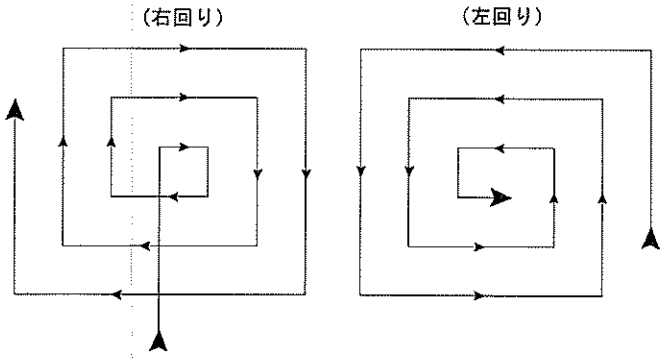
### ● クローラ外れの防止

① 斜面での旋回はクローラが外れやすくなるので、平坦な場所で旋回を行なってください。

② 片側のクローラが脱輪又はスタックした場合は本機を旋回させずにまっすぐ低速で引き出してください。

### ● なるべく周囲に草を飛散させたくない場合

① 草を周囲に飛散させたくない場合は、右回りで作業をしてください。

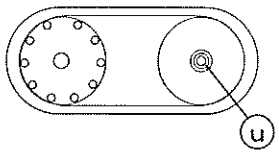


## ● クローラの取付け。
（8.3章参照）

① エンジンを停止させて燃料コックを”OFF”にしてください。

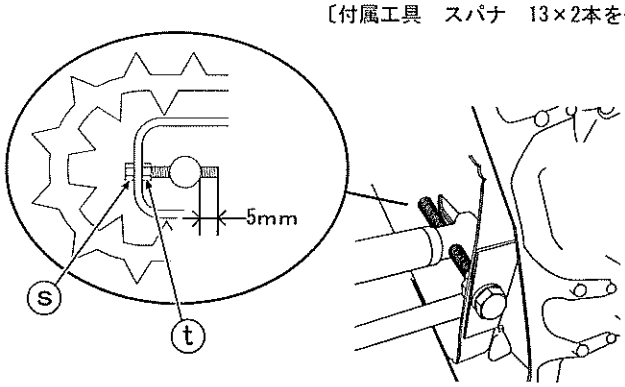
② 左右のホイールナット（u）をゆるめて、クローラを取付ける側は取外してください。

〔付属工具　スパナ　19を使用〕

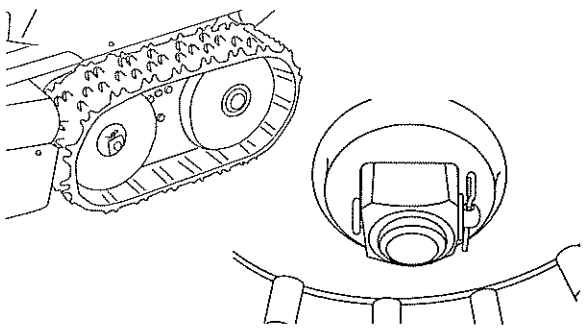



③ 左右のロックナット（t）をゆるめ、アジャスタボルト（s）を5mm以下にゆるめてください。

〔付属工具　スパナ　13×2本を使用〕

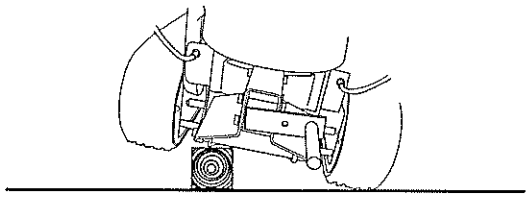



④ 取付ける側のスナップピン、ワッシャ、頭付ピンを外してください。



⑤ 取付ける側に枕木等を入れて地面から浮かしてください。

注】
手や足をはさまないように注意してください。



⑥ 前輪と後輪を外してください。

⑦ クローラに前輪と後輪を合わせて元に戻してください。

⑧ ⑤で外した部品を組付けてください。

⑨ 枕木を外してください。

⑩ 左右のクローラの張り調整を行ってください。

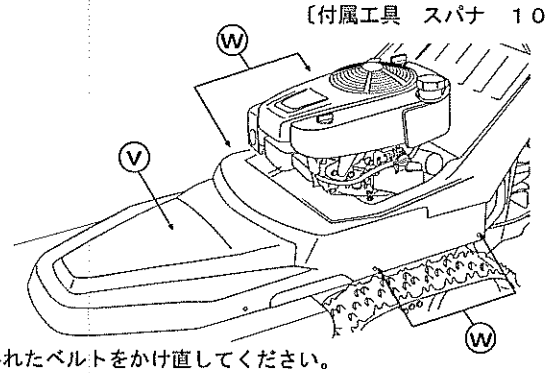
⑪ 左右のホイールナットを締め付けてください。

## ● ベルトが外れた場合。
（8.4章参照）

① エンジンを停止させて燃料コックを”OFF”にしてください。

② 4本のボルト（w）を外した後、カバー（v）を外してください。

〔付属工具　スパナ　１０を使用〕




③ 外れたベルトをかけ直してください。

④ カバーを取付けた後、運転確認を行ってください。

⑤ 頻繁に外れる場合は、ベルト押さえの調整またはベルト交換を販売店へ依頼してください。